笠松に住む人の歴史の中に在り続けたい

青年部員の事業所に行って聞いてきました 第八回 福證寺さん

2010.7.7訪問

今回訪問させていただいたのは、現在、広報交流委員会の委員長をされている岩越智俊さんが従事されている福證寺さんです。

（文・新藤容至臣）

一五八六年（戦国時代）木曽川の氾濫により長池から笠松に寺地を移した福證寺さん、その歴史は四百年以上にもなります。現在二十代目の岩越さんは平成二十年に住職になられました。

「オレのシゴト」について教えてください

うれしいと思うことは何ですか？

家族、亡くなられたおじいちゃん、おばあちゃんを大事にしている家にお参りに行く時や、お葬式・法事の時などお寺さんとして暖かく迎らえた時はうれしく思います。

ツライことは？

職業上、正座をしている時間が長いのですが、一日6時間を超えるような日はどうしても足が痛くなります。

また、衣を着ると夏は暑いです。

仕事を通じて学んだことは？

人の家の座敷にあがって業務に従事するという特殊な職業であるため、それぞれの家庭の事情を垣間見ることがあり、またその家の人と会話する中で、さまざまなことを教わります。

住職として仕事をはじめた頃には、とりとめのない話しかできませんでしたが、今は「僧侶の立場だからこそ伝えられる話」をできるだけしようと努力しています。

聞いてなっトク ココだけの話

現在仕事において工夫していることはありますか？

年に3回新聞を配布しています、事業報告や今後の活動予定などを掲載しています、最初は白黒でしたが写真などを添付したカラーのものをつくるようになり、よりわかりやすい新聞になっています。

現在おかれている環境及び、今後の目標について

現在核家族化・少子化が進んでおり、お内仏の前で手を合わせられる環境にない子どもさんが増えてきています。

毎年春に行っている子どもさん向けのお勤めのけいこをできるだけ長く継続していくことで、家庭、家族、そして何よりも自分自身がとても尊いいのちであることを、広く伝えていきたいと思います

そして、それを伝えていく場所として、受け継いだこの福證寺を、末永く守っていくことが最大の使命であると思っています。